

曖昧なリニア建設理由 住民の疑問が新聞に掲載される！

11月14日付『朝日新聞』の投稿欄「声」に、リニア中央新幹線建設予定地域である川崎市民の、リニア中央新幹線建設に対する疑問・JR東海への怒りの声が掲載されました。投稿文では、JR東海が開催した住民説明会での、質問に対する回答の曖昧さや、実験線で得たデータの情報公開が不十分であることを指摘しています。そして、JR東海の情報隠しを援護しているマスコミにも疑問を投げかけています。

リニア建設は、住民の理解がなければ進めることができません。

しかし、この投書で指摘されているように、JR東海は、住民の意見を聞かずリニア建設を強引に推し進めようとしています。会社は住民の不安や不満の声を真摯に受け止め、直ちにリニア中央新幹線建設を見直すべきです。

11月14日 水曜日 12版 ▲ オピニオン 14

『朝日新聞』 11月14日 Voice 声

リニア新幹線計画 検証せよ

嘱託社員 田中 美津次
(川崎市麻生区 67)

JR東海が推進するリニア中央新幹線建設計画は、2年後の着工に向け、環境アセスメントの段階にある。

事業費9兆円超を投じ、2027年に品川―名古屋間を40分で、45年に大阪まで67分で結ぶという。しかし、パブリックコメントや住民説明会での質問に対してJR東海は極めてあいまいな回答に終始している。

まず第1に建設目的。第2に電磁波の影響、第3に大半が地下トンネルを走行することによる困難が予想される緊急時の避難手段だ。乗客の安全対策は死活問題である。さらに、活断層

と南アルプスの巨大断層、地下水脈、ウラン鉱床の存在、トンネル工事で出る膨大な残土処理、新幹線の約3倍ともいわれ、原発の稼働を前提とする大量の電力消費など問題点が数多い。生活環境、生態系への影響を危惧する声が広がっている。

だが、JR東海は実験線のデータなどの情報公開を拒んでいる。この現状をマスメディアは放置してはいないか。これほどに危険性が高く、疑問符の多い事業であるのに、報道は皆無に近いと感じられる。社会の公器たるマスメディアは、リニア計画を徹底検証して賢明な選択を目指すべく、社会全体で議論を起す使命があると思う。

リニアの情報を正確に伝えなくマスコミも問題だ！